第3回人吉市復興まちづくり推進会議 議事録

日時：令和7年3月14日(金) 14:00-16:00

場所：市庁舎3階庁議室（復興支援課前）

出席者：[委員]

人吉市長

人吉市社会福祉協議会 会長

熊本県立大学 教授

東校区支部 支部長

西校区支部 支部長

人吉市消防団 副団長

人吉商工会議所 会頭

人吉温泉観光協会 代表理事

人吉市文化財保護委員会 委員長

青井阿蘇神社 宮司

人吉市PTA連絡協議会 会長

(一社)ひとよし球磨青年会議所 理事長

国土交通省 八代河川国道事務所 所長

熊本県 球磨地域振興局 局長

熊本県 球磨川流域復興局 政策監

[事務局]

人吉市 復興支援課

[デザイン会議 座長]

熊本大学 教授

[デザイン会議 プロジェクトマネージャー]

人吉市 復興政策部

ハートビートプラン

[デザイン会議 随行]

国土交通省 九州地方整備局

熊本県 球磨川流域復興局

球磨地域振興局

土木部工務第一課

土木部まちづくり工務課

交通政策課

復興建設部

市街地復興課

都市計画課

経済部

ハートビートプラン

松岡 隼人

柴田 祐

吉田 力 (欠席)

中村 良郎

皆越 英世

岩下 博明 (欠席)

鳥越 英夫

井上 道代

福川 義文 (欠席)

永田 政司

北 貴之

飯島 直己

田口 雄一

中川 太介

竹内 常泰 次長、田中 健志 係長、山田 千夏 主事

星野 裕司

溝口 尚也 部長 (溝口 PM)

泉 英明 代表取締役 (泉 PM)

一ノ瀬 誠 課長、岸良 武志 建設専門官

木村 博之 課長補佐、平木 佑弥 参事

甲斐 奈美枝 次長、池田 純一 副部長

満田 好昭 課長、平良 健 班長

石村 祐貴 課長、栗屋 宜典 主幹

白坂 禎敏 課長

立場 康宏 部長

井上 敬明 次長

屋野 英明 係長

淵上 聖也 部長

新津 瞬

資料：【資料1 今年度実施の会議一覧】

【資料2 社会実験の考え方】

【資料3 合同意見交換会・担い手ワークショップ・フォーラムについて】

【資料4 今年度社会実験報告】

【資料5 デザイン監修について】

【資料6-1 人吉市まちなかランドデザイン推進アクションプラン案 本編】

【資料6-2 人吉市まちなかランドデザイン推進アクションプラン案 概要版】

【資料7 デザイン監修案について】

【資料8 今後の進め方について】

記録：田中

【決定・承認事項】

1. 今年度実施の会議について報告
2. 社会実験の考え方について報告
3. 合同意見交換会・担い手ワークショップ・フォーラムについて報告
4. 今年度社会実験について報告
5. デザイン監修について報告
6. 「人吉市まちなかグランドデザイン推進アクションプラン案」について承認
7. デザイン監修案について承認

【議事録】

(1) 開会・市長挨拶

(松岡市長)

- ・皆さまこんにちは。日頃より人吉の復興まちづくりにご協力いただき感謝を申し上げます。
- ・本市の復旧状況としては、3277世帯に被災証明を発行したが、現在はその95%が再建されている。5%は住まいの確保が課題となっていたが、2月28日に東校区の災害公営住宅が完成し、仮渡しをした。また、熊本県が建設された木造の利活用住宅についても3月末までに改修を終え、4月から順次入居いただく予定である。
- ・それと並行して、未来の復興まちづくりに向け、みなさまと議論しながら歩みを進めている。その中の取組としてSL人吉の夜間のライトアップやうぐいす温泉周辺で社会実験を実施しており、子どもたちが遊ぶ姿も見られている。この様子をまち全体に広げていきたい。みなさまにもご協力いただきたい。
- ・本日は人吉まちなかグランドデザイン推進アクションプラン案について主に議論したいと思っている。是非忌憚のない意見をいただきたい。

【報告事項】

(2) 今年度実施の会議について

【資料1 今年度実施の会議一覧】

(溝口PM)

- ・今年度、推進会議は計3回、デザイン会議は月に1回実施し計8回の実施となる。
- ・TF（タスクフォース）は各エリア・テーマにおける関係者と専門家で構成される会議体であり、各エリアにおける整備の進め方や、デザイン監修、設計支援のための会議を実施している。整備の進捗状況に応じ、TFによって開催回数に差はあるものの、延べ40回開催されている。各会議の間もメール等でやり取りを行っており、その結果についてデザイン会議で議論している。
- ・その他、中心市街地や青井の既存のまちづくり協議会における我々の活動の説明や職員研修会、市民や民間事業者呼びかけて実施した12月の意見交換会、1月・2月の担い手ワークショップ、3月のまちなかフォーラムなど、計15回実施した。
- ・今年度の動きとしては、大きく分けて2つの期間がある。1つ目の第1回推進会議から第2回推進会議までの期間は、各エリアの担当者と専門家の議論、住民・事業者のヒアリングを踏まえアクションプランを作成した。その後の第3回推進会議までの期間はアクションプラン素案を意見交換会や担い手ワークショップで発表し、その上で今後の社会実験や事業の担い手の発掘や連携を深めた。さらにそれを踏まえ、エリア担当者と専門家が議論を重ねた。このような経緯を得て、この場でアクションプラン案を諮る段階に至った。

(竹内次長)

- ・上記に関して、質問等はあるか。
(委員から質問無し)

(3) 社会実験の考え方について

【資料2 社会実験の考え方】

(泉PM)

- ・治水や道路、区画整理といった行政事業だけではなく、人吉の個性を活かし、まちに人が来てくれるような景観形成や照明、交通等の方法を考えてきた。それは整備にお金をかけるということではなく、人吉の個性を生かすデザイン監修と、空間を使いこなすアイデアを持つ担い手との対話を並行して進め、アクションプランの作成を進めてきた。アクションプランの使い方はハードの作り方と使い方を示すものである。
- ・来年度は担い手と将来の事業や取組をイメージしながら社会実験を実施し、それが市民に受け入れられるのか、事業として収支が成り立つのかということを検証したいと思っている。その社会実験の結果をハードにも反映したい。
- ・これまでのまちづくりは一般的に行政がプランをつくり、完成した空間を市民に使ってくださいというような進め方をしてきたが、人口縮小時代では整備した空間を持って余してしまい、そもそもそのような空間は使い手の意思が全く反映されておらず使いにくいものになってしまっている。今回は将来の取組や事業の担い手がビジョンづくりから関わり、社会実験で事業性や魅力創出を担い手自らが実践し、その結果を体験しながら、プランニングに反映し、それをハード整備にもつなげたいと考えている。
- ・例えば中川原公園は今年復旧工事が進んできたが、3年後までにどのような空間に再編するべきかについて社会実験を通して考え、その後の運営体制構築やハード整備に繋げたい。
- ・社会実験は、メインは9～10月の出水期・非出水期をまたぐ2か月間の実施を想定している。増水時の対応なども含めて運営の仕方を考えたい。
- ・次年度の社会実験では、河川空間活用、交通再編+プレイスメイキング、夜間照明、人吉球磨全体の地域循環について検証したいと思っている。
- ・公共空間をまちに開き、稼げる空間にして、持続可能な状態にするということを、行政や専門家がバックアップしながら、住民や事業者が自ら実践する方法を考えたい。
- ・社会実験には行政運営事業、民間自主事業、協力事業がある。行政は民間がやりたいことを実現するためのハード整備や滞留設備、夜間照明等を設え、その上で民間の担い手が自主的に事業できる状態を目指したい。許認可や広報支援、事業化の仕組み構築も行政・専門家がバックアップしたいと思っている。おくんち祭りや花火大会など連動できるイベントがあれば、協力事業として連動したい。
- ・民間自主事業は、イベントではなく、将来の日常のシーンをつくるために必要な空間整備や制度設計は何かということを考えて内容にしていきたい。ただ、まずは単発のイベントも含めて実践し、いずれは事業化に繋げていくことができると良いと思っている。
- ・民間自主事業に関わる費用については、事業者の自己負担を想定している。
- ・様々なエリアで社会実験を実施するが、各エリアに市の担当リーダーがサポートする。また全体統括チームで全体を統括・支援し、情報発信チームが社会実験の内容やそれまでの準備も含めて広報したいと考えている。
- ・青井エリアでは参道の軸をつくり、球磨川沿いに船着き場を設置することで、例えば船着き場で降

りて青井阿蘇神社に参拝ができるようにしてはどうかということや、神社周辺を歩行者天国化できないかということを考えている。

- ・中川原公園では様々なアクティビティを想定している。その周辺では、週末は大橋を歩行者天国化、川沿いのテラスに佇むことができるようにすること、胸川での水遊びといったことも考えている。
- ・城見庭園ではデッキを設けて川や城跡を見ることができるようになりたい。またこの場所で高校カヌー一部と地域の方が交流できると良いと思っている。
- ・人吉城跡は植栽を剪定し石垣が綺麗に見えるようにすることや、市道を廃止して人が佇める空間にするということを考えている。また、花火の際に有料の観覧席をつくることも検討している。
- ・中心市街地はうぐいす温泉にて現在社会実験を実施している。後ほど詳しく紹介する。
- ・鍛冶屋町ではまちなみの保全、夏目友人帳と連携した取組をされている。

(竹内次長)

- ・上記に関して、質問等はあるか。
(委員から質問無し)

(4) 合同意見交換会・担い手ワークショップ・フォーラムについて

【資料3 合同意見交換会・担い手ワークショップ・フォーラムについて】

(泉PM)

- ・これまで合同意見交換会・担い手ワークショップを実施してきており、明日まちなかフォーラムを実施する予定である。
- ・合同意見交換会は、12月22日(日)に開催して計130名ほどが集まり、様々なアイデアを発散的に出し合う機会とした。
- ・担い手ワークショップは、第一回は担い手自身がアイデアを個別で出し、全員発表した。第二回は、それぞれのアイデアが似ている方を同じテーブルにして、どのように連携できるか、どのように進めていくとよいかということを議論した。
- ・アイデアの例として、「球磨川テラス」では旅館の前の通りを通行止めにしてテラスを設え、佇める場所にするを考えており、富田氏は飲食物の提供、有村氏はウェルカム鮎を企画している。その関連企画として、3月30日には同じ場所で「城下町夜市」という企画が実施されることになっている。
- ・中川原公園・大橋では、北氏・竹本氏がテントサウナやBBQ等を用いたアドベンチャーツーリズムができないかということを考えている。9月27日には中川原公園上流部で音楽フェスも実施する予定である。
- ・マルシェでは、深水氏はレトロな雰囲気のある蚤の市、鳥飼氏は生産者と飲食店をつなげるマルシェ、緒方氏・田中氏は参道での夜市を考えており自身のメディアで情報発信もできないかと考えている。
- ・サードプレイスでは、岡本氏が本棚を貸し出す“みんとしょ”のようなことができないかと考えている。
- ・ランドバンクでは、空き地を活用して雨庭や竹筋コンクリートの駐車場整備ができないかということを考えている。
- ・回遊では、石垣氏が全エリアを結ぶウォーキングスタンプラリー、坂本氏は既にやられているフットパスの展開を考えている。
- ・観光は片岡氏が体験型の観光案内所を検討している。
- ・城見庭園はカヌー一部が周辺町会の方と一緒に清掃活動ができないかということや、子ども向けのコ

ンテンツを実施しカヌーに興味を持ってもらい参加する人を増やしたいと考えている。

- ・アクションプランと担い手の社会実験アイデアを明日のフォーラムで広く発信したいと思っている。

(竹内次長)

- ・上記に関して、質問等はあるか。
(委員から質問無し)

(5) 今年度社会実験について (SLライトアップ・うぐいす温泉周辺)

【資料4 今年度社会実験報告】

○SLライトアップについて

(溝口PM)

- ・駅前のSLは昨年11月の一般公開後から大変な人気を博しており、隣接するMOZOCAステーションの来客数や各種売上も向上を続けている。ただ、夜間は暗く来訪する人はいない。そこで、夏目友人帳の影絵は人気があることから、それらと連動したライトアップの社会実験を計画した。2月には点灯式を実施した。当日は50名ほどが集まり、松岡市長からの挨拶や照明専門家の長町氏から挨拶があり、テレビ等で報道された。
- ・ライトアップは時間の経過とともに3色に切り替わるようになっており、滞在者が楽しめるようになっている。結果的に滞在時間も伸びている。夏目友人帳影絵とともに、夜間の目的創出と周遊性の向上を期待している。

○うぐいす温泉社会実験について

(井上(敬)氏)

- ・中心市街地は空き地や空き家の増加が課題となっている。そこで土地の価値を落とさず、未利用の土地を有効活用して周辺エリア全体の魅力を維持・向上すべく、官民連携の体制で臨む第一弾の社会実験として実施した。
- ・この社会実験はイベントではなく、日常的な風景として、将来地域が魅力的になる方法を探るものである。
- ・社会実験の目的は2点である。①将来の日常を考えた使い方の確認、②地域の価値を高めること。将来の暮らしを想定して、公共的な空間やその活用が将来想定される暮らしにどのように役立つかを探りたい。
- ・実験は鶯温泉の敷地を活用し、みどり溢れる広場をつくり、地域や来街者が自由に使える交流の場としている。将来近隣の方が自由に使いながら、交流が生まれ、コミュニティが活性化することや、環境を変えることで土地利用のニーズが高まり、民間の投資を誘発する事業としたいと思っている。
- ・社会実験は3月1日に開始し、多くの住民で賑わった。また、移動図書館も呼ぶことで、多世代の方が長時間滞在する様子も見られた。実験は3月30日まで実施する。

(竹内次長)

- ・上記に関して、質問等はあるか。

(永田氏)

- ・うぐいす温泉については、駐車場の近くに標識があるとありがたい。どこに何台駐車できるか、

又提携駐車場などの案内が欲しい。

(井上(敬)氏)

- ・ 駐車場については同様の意見をもらっている。今後考えていきたい。

(永田氏)

- ・ 今後温泉は掘るのか。

(井上(敬)氏)

- ・ 未定である。社会実験を通じて方針を考えたい。

(永田氏)

- ・ 梅雨、暑い時期など季節によって車両の台数なども変わってくる。1ヶ月で諸々の検証ができるのか。

(井上(敬)氏)

- ・ 様々な構造物の撤去期間を考慮し、1ヶ月の期限とした。アンケートを踏まえて2度目の社会実験を実施することも考えている。その際はより長い期間で実施したいと考えている。(井上)

(永田氏)

- ・ SLは子ども、撮り鉄に人気がある。ライトアップすることはとても良い。ただ電気代がかなりかかると思っている。コスト面はどのように考えているか。

(溝口PM)

- ・ コストの問題は考慮すべきだが、地元や来街者の方がこの場所に行ってみたいと思うためには、地域資源を照らすことが効果的なのではないかと考えている。SLであればMOZOCAステーションと連携し収益を生むという方法もあると思う。公園や城跡はその場所では収益は生めないが、まちなかを回遊してもらい、エリア全体に波及効果を生めないかと考えている。コストについては時間をコントロールすることで対応したいと考えている。

(永田)

- ・ うぐいす温泉の土地は誰の持ち物なのか。

(井上(敬)氏)

- ・ 民間（個人）の持ち物である。

(永田)

- ・ 仮に土地を買いいたいという人がいた場合はどうするのか。

(井上(敬)氏)

- ・ 市が今後活用していくことを目指しているが交渉中である。

(鳥越)

- ・うぐいす温泉は入場可能時間が10時～17時までと時間が限られているが何か理由があるのか。

(井上(敬)氏)

- ・施錠の時間を設けている。また、移動図書館やキッチンカー等の都合も踏まえて設定している。

(鳥越)

- ・防犯の観点もあると思うが、使う目線で空間を考えるという意味では、早朝から使いたいというニーズもあるかもしれない。防犯の観点としてカメラの設置も考えて、より使いやすいようにしていただきたい。

(永田)

- ・夜も休憩する場所があると良い。今はない。カップルが過ごせるような場所があると良い。

(井上(敬)氏)

- ・時間については今後柔軟に考えていきたい。

(6) デザイン監修について

【資料5 デザイン監修について】

○中川原公園の災害復旧及び護岸工事

(井上(敬)氏)

- ・中川原公園の災害復旧工事は、今月に張芝やコンクリート舗装が完了しており、芝の養生期間をGW頃まで設けている。
- ・R7年度には移動式トイレレーラーの設置を予定している。八代河川国道事務所による護岸工事も実施される。
- ・中川原公園の整備を進めるにあたり、かわまちづくり実行委員会やデザイン会議で議論し、住民との合意形成を行いながら進めている。
- ・今後も引き続き、アクションプランに基づいた整備を続けていきたい。

(中村氏)

- ・中川原公園は車でアクセスできるのか。

(屋野氏)

→来年度から具体の検討をしていくが、中川原公園は様々な利用形態があると思っている。版下げの影響もあるため、どういう必要があるのかを段階的に見極めて、社会実験を踏まえ考えていきたい。中川原公園に車で入れるようにするのか、徒歩のみで入れるようにするのかということも含めて検討していきたいと思っている。

(鳥越氏)

- ・朝から散歩道路のみ区画を区切って使えるようにすることも社会実験になる。観光客は年に1回来ると考えると、その際に朝散歩できるようになると良いと思う。部分開業をすることも考えてほしい。

(屋野氏)

- ・散歩の利用が多いことは承知している。日常的な利用を含めた利活用の検討をしていきたい。

(鳥越氏)

- ・6月1日から鮎の解禁になる。鮎釣りの人たちが多数来訪されるため、その対策を6月前に決めておいた方が良い。

(屋野氏)

- ・被災前から意見が出ている。鮎釣りの人たちの対策ができるように早めに検討しておきたい。

(北氏)

- ・使う目線のまちづくりの進め方をする上で、社会実験は非常に重要になると思う。それに対して、行政の予算はない状態で、現在想定している社会実験が全て実現できるのか疑問である。民間側の予算に余裕はないだろう。補助金を活用する場合でも、今の段階から補助金を確保するために動く必要がある。全ての事業でなく、効果が見込める計画については、行政側も多少予算を準備する方が良いのではないか。

(溝口PM)

- ・次年度は当初予算の用意がない。ハードの設えや歩行者天国等の行政運営事業や交通量調査などは6月補正予算確保を考えている。様々な事業が存在するため個別の相談は受け付けたい。

(泉PM)

- ・行政はハード整備を実施するが、民間のソフトの取組に最初から予算を出してしまうと、その予算目当ての担い手が殺到する。その人たちは予算が無くなると辞めてしまう人が出てしまう。そうすると事業化を目指す人にとっても良くない。最初は行政と民間で予算の取り方を仕分けておきながら、今後のやり取りの中で必要に応じて行政予算を用いるなど適切な方法を探っていけると良い。事業によっては行政が一部支援をすることで事業として成立するものもある。100%行政が負担するのではなく、60%は民間負担・40%は行政負担といった予算の分担をすることも可能性としてはあり得る。

(北氏)

- ・やりたいことがあっても社会実験を実施できない人もいるかもしれないということを懸念している。初期投資の一部だけ行政が負担するなどして、少なくとも社会実験を全てのエリアで最低1つ実施できると良いと思う。

(鳥越氏)

- ・復興まちづくりの動きやアクションプランを知らない人も多い。区画整理の対象になる方はよく知っているが、範囲外の人には知らないこともある。様々な方法を使って知ってもらう工夫をすることが必要である。まちなかフォーラムもYouTubeで公開できると良い。この動きを知っていれば、引越さなかった、商いを継続できたという人もいるかもしれない。情報発信の方法は今後も検討していただきたい。

【審議事項】

(7)「人吉市まちなかグランドデザイン推進アクションプラン案」の説明

【資料6-1 人吉市まちなかグランドデザイン推進アクションプラン案 本編】

【資料6-2 人吉市まちなかグランドデザイン推進アクションプラン案 概要版】

(溝口PM)

- ・人吉市まちなかグランドデザイン推進アクションプラン案を提案する。
- ・アクションプランの趣旨は安心して住み続けられるまちづくりを実現すること。その中で水害の被害が特に大きかったまちなかエリアを対象に、官民連携で多くの市民の方と対話を重ね、それぞれを取りまとめたのがアクションプランである。行政のプランに民間の取組を重ねたまちづくりを進めたい。
- ・住民の方が住み続けたい・外に住む人が行ってみたい・その両方で共に楽しみたいというまちを目指している。そのために暮らしの満足度の向上・観光地としての魅力向上という、日々の暮らしと観光の観点が共にサイクルとして連動し、好循環を生まれるようにしたい。また、人吉球磨の個性や魅力を最大限生かし、暮らしと生業が充実し、地域への再投資が生まれることで次世代に繋がるのが重要だと考えている。また、それには安全安心を大前提として考える必要があると思っている。

(泉PM)

- ・合同意見交換会・担い手ワークショップ・まちづくり協議会・出張窓口等で地域住民や事業者から出たアイデアと、デザイン会議・推進会議で議論した内容を重ね合わせアクションプラン案を策定した。このプランを明日のまちなかフォーラムで発表しようと考えている。
- ・ランドスケープは景観形成という言い方に変更した。ピンクで記載しているのは歩行者のネットワークのイメージである。赤の矢印は視点場を示しており、重要とすべき5つの視点を設定している。
- ・交通・駐車場・モビリティは特に素案から変わっておらず、様々な交通モードに乗り換えが可能なモビリティハブを設置することが重要と考えている。
- ・照明も素案から大きく変更していない。安心安全を照明で確保することや、タイマーで電力消費量をコントロールすることを記載している。また、右岸側から左岸側へのビューが重要であるということや各エリアのポイントを記載している。
- ・ランドバンクも素案から変更していない。多く存在する空地の環境を悪化させず維持する仕組みを考えたい。
- ・情報発信は様々な動きをしている。人吉は個人で情報発信をされている方が多いため、その方々との連携を図ったり、マスメディアの方との意見交換を行ったりしながら、情報発信の方法を考え、各種メディアで高校生にも分かるようなわかりやすい情報発信を行っている。
- ・ハードができたあとに空間を有効活用するための仕組みづくりをしたい。また、鍛冶屋町の街並み保全や青井エリアは参道軸をつくるというような景観づくりの取組、まちなかの価値を伝えるサイン計画・整備にも取り組んでいきたい。
- ・回遊動線は、歩行者ネットワークについて青井エリアの国道445号線を宝来町交差点まで伸ばすといった修正をしている。
- ・10拠点の活かし方と将来イメージは特に変更はないが、うぐいす温泉周辺は市民の方が気軽に

立ち寄れる場所にするのと、市外の方が人吉の巡り方を知るゲート的な空間にしたいという内容に修正した。人吉駅前+SLは、大村横穴群も含めて駅周辺を一体で考えるという文章に修正した。

- ・アクションプランの関わり方が分からないという人も多いかと思う。関わり方としては社会実験や事業以外にも、社会実験を手伝う・参加して楽しむ・まちなかでつろぐ・情報を発信するという様々なかかわり方があると思っている。どんな関わり方でもいいので、復興まちづくりに参加する人を増やしたいと思っている。復興まちづくりの内容は公式SNSやnoteで分かりやすく解説しているため、どのようなことをしているのかわからないという人にも是非見ていただきたい。
- ・アクションプランは更新が前提である。社会実験を通して運用方法を見定め、適宜内容を更新したいと思っている。

(飯島氏)

- ・情報発信の方法をこれから考えたほうが良い。これまで人づくりを中心に進めていたと思うが、そのことをもっと発信したほうが良い。菊池市では地元出身のSKE48のメンバーの方と連携して発信するというニュースがあった。来年度は多くの社会実験が実施されるため、外から人を連れてくるという観点から、訴求力のある人やメディアとコラボできると良いと思う。

(泉氏)

- ・北氏が連携しているラランドは影響力がある

(北氏)

- ・先週ラランドが全国版のメディアで人吉の飲食店をPRしており、その影響で県外からそのお店に人が殺到していた。ラランドも観光大使の準備は万全である。市として準備してもらいたい。

(松岡市長)

- ・早く観光PR大使の制度をつくるように担当者には指示している。

(飯島氏)

- ・予算については、現政権は地方創生に力を入れている。社会実験において、第二世代型の交付金を活用できると良いと思う。まだ申し込みがされていなければ二次募集もあるため検討いただくと良いと思う。

(溝口PM)

- ・一次募集申し込んでおり、昨日内示が出て予算を確保することができたため、ソフト事業は進めていける。今後はハード整備も含めた予算について、その他の補助金も活用して確保したい。

(永田氏)

- ・10拠点のイメージは素晴らしい。ただ、これがいつ完成するのか。10年後には完成しないと人が流出してしまう。早めに動かなければいけない。10拠点全部でとって風呂敷を広げると、絵に描いた餅にならないか心配である。例えば、思い切って2-3拠点に絞るといようにしないと、どれも中途半端になるのではないか。10拠点すべてで手を挙げる人がいるのか。例えば、

鍛冶屋町はすでに出来上がっているため今回は対象としないという選択や、新町はあまり人が歩いていないため除外する選択肢もあるのではないかと。力を入れるのであれば、青井エリア、中心市街地エリア、中川原・胸川エリアくらいに絞る必要があるのではないかと。

(溝口PM)

- ・青井エリア、うぐいす温泉、中川原エリアは既に事業が進んでおり、5年後10年後は今と違う風景になることは間違いない。その整備が間違った方向にならないようにデザイン会議・推進会議で議論している。民間のアイデアも含めて、描いている理想を全て実現するとは断言できないが、行政としては期待を持って事業を進めていきたい。重要拠点を10設定しているが、全てに莫大な投資と大きな整備をするわけではなく、特に鍛冶屋町・新町は大きな投資は想定していない。ただ、それらの拠点をつなぐことが重要だと思っている。全てが連動しているという意識を持ってまちづくりを進めたい。

(泉PM)

- ・東日本大震災でもハードを優先して整備を行ったが、結局人がその場所に全然戻ってこなかったという反省がある。今回も治水事業がベースだが、使う人が全く見えない中で進めると、同じ轍を踏んでしまうため、そうならないようにしたい。言われる通り10の拠点のうち民間事業運営が実現するのは3-4拠点だけになるかもしれないが、全ての場所でイベントが起こるようなことではなく、描いた日常のシーンが生まれていることが重要だと思う。描いた将来像が実現することを目指していきたい。地域の方々の想いも重要だと思うので、地域の方とともに考えていきたい。

(永田氏)

- ・駐車場の確保が課題だと感じる。おくんち祭りの時などは特に駐車場が足りていない。中川原公園も駐車場がないと高齢者は来訪ができない。駐車場は整備をした上で、まちなかのネットワークをつなげる必要がある。土地はまちなかに余っているが、駐車場が足りていないのが実情である。

(溝口PM)

- ・駐車場についてはデザイン会議で議論している。ただ、行政として土地が多く持ち合わせておらず、公営が良いのか民営が良いのかということも含め、来年度に駐車場の利用実態調査をした上で検討していきたい。青井エリアや駅前には駐車場が足りていないと感じるので、それも念頭に入れて検討したい。(溝口)

(泉PM)

- ・駐車場は足りているという人と足りていないという人の両方の意見がある。おくんち祭りのような特異日は除いて、年間を通じた駐車場の充足率について来年度にデータを取ろうと思っている。そのデータを踏まえて、将来整備が完了した際に、どの程度の需要があるのかについて考えていきたいと思う。(泉)

(8) デザイン監修案について

【資料7 デザイン監修案について】

○青井阿蘇神社周辺

(井上(敬)氏)

- ・青井神社周辺は観光拠点としての回遊性を向上と生活の快適性の両方を目指す。
- ・国道445号線は一貫性を持った空間整備を行う。
- ・青井神社周辺を景観に配慮した石畳の舗装を考えている。国道445号線の車道は石畳風の半たわみ舗装にすることを考えている。
- ・参道の両側は賑わいある広場にできればと考えている。
- ・今後詳細なデザインを検討していく。

○山田川

(井上(敬)氏)

- ・低水護岸通路を整備し、堤防の幅を広げた護岸形式とする。
- ・低水護岸通路に加えて、石畳も整備して回遊性を高め、まちづくりと一体となった空間にしようと考えている。
- ・高水護岸を切石の間知石積という断面が四角形の石を敷き詰めるという構造で、低水護岸は玉石の練石積という丸い石を積みその間をモルタルで敷き詰めるという構造にしたいと考えている。安心安全だけでなく、自然に配慮した護岸構造にしたいと思っている。

(永田氏)

- ・神社の参道沿いはどのような公園になるのか。

(井上(敬)氏)

- ・未定である。これから社会実験等を通じて検討したい。もしご意見があればお聞きしたい

(星野氏)

- ・公園・広場の使い方はまだ白紙である。これからの担い手の使い方や球磨川に続く参道軸の設えによって決まってくる。

(永田氏)

- ・レストランが入るようなこともあり得るのか。

(長町氏)

- ・あり得る。そのような事も含めて今後検討していく。にぎわい施設は常設の上等な店舗が入り、地元事業者が運営することが理想である。みんなで協力し機運を高めながらその状態を目指していきたい。

(永田氏)

- ・やはりバスの駐車場が足りない。

(星野氏)

- ・バスはこの場所に停める必要はないため、まち全体で配置や台数を考えられると良いと思う。

(井上(道)氏)

- ・飛び石は置いた時に治水上の影響が出てしまうのではないか。

(井上(敬)氏)

- ・球磨川の上流下流が繋がっていないため、その動線を確認したいと考えている。安全上の問題は無いかということは今後精査したい。

(田口氏)

- ・ものが引っかかったり、流れを阻害する可能性があるため、安全の観点の問題があるため、場合によっては実験も必要だと思っている。

(井上(道)氏)

- ・城を見るときに樹木が多いため、景観が良くなるように樹木の剪定をすると書いてある。あまりバッサリと切ってしまうと、石垣が見えるのは良いかもしれないが昔の景色が失われるのではないか。そのことも考えながら進めてほしい。

(泉PM)

- ・樹木の整備は文化課の方と協議し、石垣に重なる一部の樹木を伐採しようと考えており、城跡の保存活用計画にも反映させる予定である。

(松岡市長)

- ・樹木については、長年にわたって議論されている。既存の風景も尊重しながら、より美しく見えるように工夫したい。

(井上(道)氏)

- ・お彼岸の時に三十三観音のパンフレットを見ようと思ったら、市役所にも観光協会にもなかった。昔は歴史館などに大量に置いていたが今は全然ない。来街者に対してどのように情報を伝えるのかと聞いたら、三十三観音の位置を示す簡単なマップを作ると言われ、各場所の簡単な説明が欲しいと話したら、係の人から分からないと言われた。三十三観音を宣伝している割には力を入れていないと思う。

(松岡市長)

- ・観光地域づくり協議会で作成していた気がするが、再度確認する。

(井上氏)

- ・日本遺産の認定は切替の時期であったが無事に継続できている。次の切替時期にもしっかりと継続できるように、ソフト的な取組も活発になってほしい。

【その他】

(9) 柴田氏・星野氏のコメント

(柴田氏)

- ・当初はこの会議は何なのだろうと思っていたかと思う。今回アクションプランが完成し、社会

実験の動きも見えてきて、少しずつイメージが湧いてきたかと思う。一方で、本日はみなさんからの説明に対する返答が「社会実験を踏まえて考える」という一辺倒の回答に感じたかもしれない。行政として決定していないことは話せないのが通常で、そのためしばらく沈黙の時期が続いてしまうが、アクションプランでは沈黙せずに決定していないことも含めて皆さんと一緒に考えて作りこんでいきたいということ。本日うぐいす温泉に行ったら若い女性が利用していた。社会実験であっても様々な人が使いやすい雰囲気づくりは重要である。身近な方にもお声がけいただき、利用した上での反応をお聞きしながら、徐々にみんなで機運を高めていけると良いと思う。

(星野氏)

- ・アクションプランを承認いただいて安心した。ただ、これからが大変である。今後も様々な意見をいただきたい。ぜひ復興まちづくりや社会実験の輪を広げていき、多くの方の意見を反映したいので、みなさんにも引き続きご協力いただきたい。

(10) 今後の進め方について

【資料8 今後の進め方について】

(溝口PM)

- ・令和7年度も推進会議・デザイン会議・TFは継続し、アクションプランに基づいたまちづくりを進めていきたい。
- ・推進会議は来年度3回実施する予定だが、第一回目は6月を目途に考えている。その際は役員も交代されていることもあるため、改めて事前にメンバーの確認をしたい。
- ・社会実験は予算の関係上、1-2か月の期間限定で実施し、その結果を12月の推進会議で報告したいと思っている。また、それと並行してハード整備のデザインについて推進会議に諮りたいと思う。
- ・アクションプランの内容が更新されれば改めて承認いただきたいと思う。

(田口氏)

- ・ロードマップを作って欲しい。各エリアによって進度は異なると思うが、2年後までにどこまで進めていくのかという事を市民にわかりやすく説明した方が良い。

(11) 閉会

(竹内次長)

- ・明日3/15にまちなかフォーラムを実施する。是非参加いただきたい。アーカイブ動画も用意する予定である。
- ・以上で推進会議を終了とする。

以上